

おい、い図書館

No. 8

関日奈子さんを 囲んで

九月二十五日、練馬区から関さんをお
迎えして講演会を持ちました。関さんは
二十年余り子供文庫の活動を通し、児童
館や図書館づくりの活動を続けている方
です。

二十三年前、また各文庫がばらばらに
活動している頃、練馬図書館の大沢図書
館員の提言で文庫連絡会が始めて生まれ
ました。それをきっかけとして、自分
の住んでいる地域の近くに図書館を、と
関さんの文庫と親子読書会が議会に請願

して、北町図書館をつくりました。初め
この開架式書架と驚いたそうです。この
時点では、自治体全体として図書館をと
らせることが出きず、早い者勝ち、と、
関さんは述懐していました。

その後次々と図書館が出き、石神井図
書館は建物の外見はすばらしく、独立した
児童室はあるが、入口に階段がありハン
ディキャップのある人は入れず集会室もあり
ませんでした。次の平和台図書館は、エ
レベーターがあり集会室や子供のおはなし
室がありました。
次の大泉の時は

青少年コーナーが
出き、関町は交
流コーナーというよ
うに、一つずつ良くな
っていきました。

平和台図書館がつくられる時、関さん



達は建設計画や運営に対し、市民も対等
の立場で考えたいと陳状を出し、「図書
館建設懇談会」が出きました。そこで基
本構想案を作りますが、住民参加と言っ
てもなかなか意見はとり上げられず、町
会代表が納得すれば通るといふ現状とし
た。

そういう状況でも半径一キロに一館と
すでに十二館が建てられました。中央
館がなく、建設が変更されて三三〇の
中央館的機能の地域館になってしまっ
たそうです。又、希望の強い声の所に先に
図書館が出きる状況でしたので、「練馬
区の図書館サービスの見とおし」につい
て陳状を出し、プロジェクトチームが
つくりましたが、市民は参加することが
できませんでした。



いま問題が...

市民から時間延長や休日開館の希望があります。限られた人数で厳しいリレーを組んでやりますから、館員全員での打合せも月二回になり、すべてにいていけない仕事が増えなかりました。行政は少い予算で少い人員、大きな効率しか考えていません。

駅ビルに社会教育施設、児童館、図書館の複合施設を作りましたが、公社委託になり問題だと思っております。

学校に、地域住民に開放した図書館をつくり、区内六十校中三十校で開館しています。指導員が一名配置され、読書指導しています。学校図書館の司書教諭配置と併せて考えると曖昧な問題と感じております。学校司書は、以前、二三区

で請願しましたが、不採択になり、その後先生方と手を結ばず進行してありません。

文庫連絡会は、各文庫にそれぞれ百冊分の補助がありました。これを変更しようという動きが出ております。

市民が図書館を育てる

十年位前から、各自浴休その図書館づくりは優れた個人を連れてきて、すばらしい図書館をつくっていただきますが、練馬の場合はすばらしい図書館人と思わなかつたので、住民の声を頼るしかなかつたと思えます。図書館員の努力に負うところも大きかつたのですが、色



々な人の声をとりこむ図書館づくりができたと言えます。

図書館は、いつまでも、どこでも資料を公開し、提供する生活に生きる図書館でなければならぬし、司書は、市民のほしい情報を得る為のアドバイザーとしての使命感を持って、利用者からの請求には徹底して探す姿勢といはしむべきでした。

最後に中東図書館の建設が甚だと語られた関さんは、その細い体から考えられないようなエネルギーな体験を話して下さいました。「しつかり学習して現実を見定の、適切な提言をすればよりよいものが成れます」と、私たちアドバイザーと励ましの言葉をいただきました。

(磯村)

発行「おーい図書館」 松戸市総合センター 青木和子 0476(267)5384